

私こと黒猫が
足で催眠される

秋の足音が近付くころ

いま私こと黒猫は「きりりん」という女の家に居る

偶に私が遊びに行く程度の間柄では在るけれど

今日は私のオススメ本を直接女に貸す為に来ただけ……

内容が内容だけに郵送とかはマズイらしい

目の前で謝罪する黒髪少女は先のきりりんの親友……「あやせ」

私が愛好せし物を土足で踏みにした邪悪なる化身……

私こと黒猫が足で催眠される

あなたがこの本を
借りたと言った所為よ

原作嫌いな癖にお気に入りの
絵師がゲストだからって

それは言い掛りとして
何故踏まれたのよ?

来る途中肌寒くて
道端で上着を羽織ったのよ

つまり人としての姿を捨て
悪夢のとばりを降ろしたの

踏まっないし

その間……道の脇に
立てかけられた袋
いつしか自律を失い
倒れて本を路上に
曝け出していた

本はその刹那に
革靴で踏まれた……

それが通り掛かりし
黒髪女だった訳よ

性的表現無条件で
嫌うからあやせ……

私も人格ごと否定され
絶縁されかけた

エロゲ
やめたら?

あんたは意外と
怒らないのね

私はあなたと違って
感情の起伏の小波さに
定評が在るのよ

でもそれが無ければ
本当のホントにすこく
優しい子だからね!?

あなたという悪女を
見せつけられた後だと
信用に値しないわね……
申し訳ないけれど

自分の好みを踏みにじられて
クソむかつくのは確かだけれど

それ以上に……「あやせ」と
いう人物も気になるから

こっちは
みんなし



己の精神をあやつりし呪術……



何ソレ

催眠術よ



最初はコスイベ会場に
服を着て行くだけで
満足していたわ
とこえんたから

心が身ともに悪夢の
女王になるため……だけど

やがてそれだけで私の
願望を満し切れなくなり
日常でも衣装を纏った



ハイハイ中2病

真の「私」になりたいとき

私は悪夢の女王だけど……
人間としての暮らしたって
送る義務があるでしょう？



学ばせて欲しい……そう
私の血が欲しているのよ

これも天界の筋書きか……
醜悪なる邪気を身にまとう
秘訣があるとしたら……



理性がナリキリを妨げる

もっと人間としての
自分を捨てたい

ところがその黒髪少女は
持てる総てを投げ打って

醜態を演じている……
というより催眠状態にある
ように私には感じられた

あたしはあたしが好きだから
捨てたいとか全然無ければ
変えたいてんなら分かるなあ

例えば読モを見る読者はそれぞれ
「アタシ変えたい☆願望」があると
仕事しててすごく感じる……

その願いに對してあたしのなす役目とは
サンプル・指標を示すこと……

「変えちゃうの手伝い」をするため
尽力すべき存在なのよ

ところであやせコレ
次の現場で着るコーデ

ステキー♡

ごもちよと
大人しくない？

今秋は暖かみが
流行るって聞いた

羨ましいでしょ黒猫さん？
あたしらの住んでる世界は
あんだのと根本的に違うのよ

私だって変えたい！
下界の人間どもを
邪悪の化身にしたいのっ！

私ごと黒猫は其の
崇高なる目的の為に
先導者と相成るのよ！

女王様って
なんなの

現世が理想と離れているなら
融合するよう革命を勃発させる

それは天上界の住人にとって
初等科程度の能力だし

③ 人間ってあんた
言ったじゃんさっき



催眠の目的……

対象者に新しい能力を
付加する事ではなく

無意識下にある心理を
水面に出す事にある

秘められし才覚……
或いは誰しも持っている悪

理性で抑えつけるのは
多大な労力を伴うでしょう？



楽になりなさい……

徐々にまぶたが
重く……重くなるわ

肩も……力が
抜けてくる



ネイビー
入ったよ



古より封印されしデーモンが
幾年より昏睡から覚醒めし時
饗宴の舞踏会は佳境を

要するにあんた的には
普段通りの電波文よ



あんたの手法はジコチューよ！



相手の「ツボ」を突く手段で
責めないと無駄になるじゃない

つまり催眠の目的は
意識の操作なんかじゃなく
コミュニケーション……

何で操られるのか
相手を探る行為に
交流を見出すのよ！



詳しいのね

小説のためには
丁度調べてた



親友ハワー
舐めないでよね？

ハプロフの犬は
だけじわいの



そこまで嫌いなもの？

嫌いです……性的表現も
題材とした元作品も
……なにかかも!!!



ならば……踏めば？

やっと見つけたわ……貴方の
邪心の正体は支配欲
だと思っ



許可してあげるわ

主君に逆らってみて頂戴？



私の理想とする世界は
主君に牙を剥く「悪事」を
息を吐くように行える空気

いつまで飼われた犬を
演じるつもりかしら？

今こそ首輪を外すとき

ぐっ
ぐっ

ぐっ
ぐっ
ぐっ



己の持ちし穢れを……権力より
解放すべき時は満ちたのよ？

紐を……引きなさい！

漆黒の領域へ——いざなわれるのよ！

ぐっぐっぐっ

はあ……



そーいう道化に走るのも
理想の自分を得る一環……ってか

友情にも当てはまるのかな

あたしの趣味がバレて
あやせに絶縁されかけた時……
互いに一つずつ真相を知った

☒: やほー
☒: こん(´-`)

あたしが「健全な桐乃」を
繕っていた事実

「エロが大嫌い」という
あやせの陰の一面……

あたしも相手を深くは
知っていなかったんだ

だから深層をぶつけ合う
付き合いがしたいってんなら

催眠もアリなんじゃ
ないかと……思った

それがどうして
変態フレイになるのか……

「じつじつと
じつじつなるのよー!」

「種付け」ってある意味では
究極の征服行為じゃん

動物的本能だし
理には適っているわよ

この解説厨がっ!

キラッ

嫌い

はあ

はあ

はっ



こぶ...こぶ...

ま...また...いつ

~~~~~!!!



おま...

はま...



私...っ!

ささめ

感じ...

聖なる水...

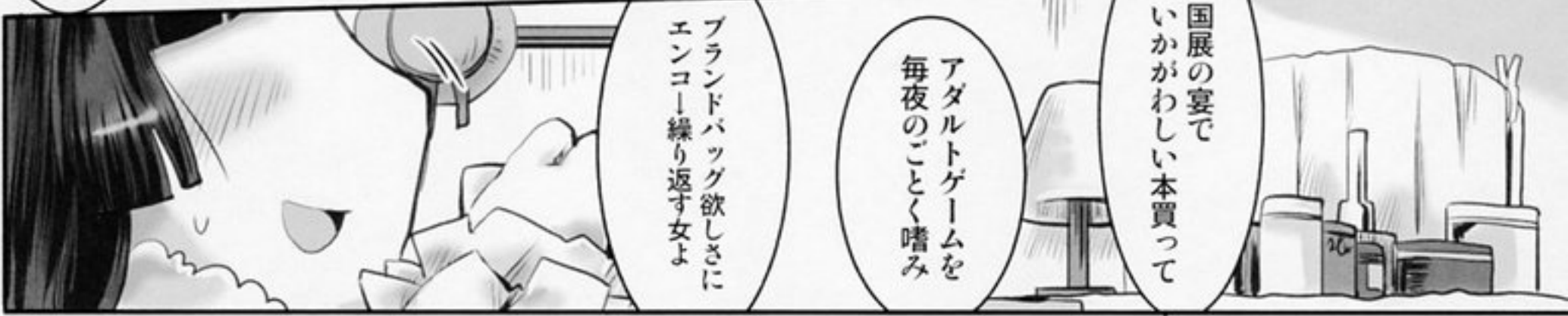
これを飲んで...  
呪術より解放されなさい



あの黒女もあんと  
同じ事しているのよ



家事法  
キセつけなさい





おい……大丈夫か?



俺出掛けるけど……洗濯物干してくれよ?

お袋が桐乃に頼んだんだからな?



桐乃に手エ出したらフチ殺しますわよ!!



あなたのリアル兄さんも敵が多いようで

まあ……あんなバカ兄貴でもバレた時役には立ってさ



『桐乃の悪影響は俺が仕込んだせいだ』的な事あやせに信じさせ原因の矛先をそらして通り一遍の罪を被ったのよ

おかげであたしとあやせは破綻せずに済んだわけ



それだと「エロ好きなきりりん」自身は否定されていなくて?

そうだけど! あやせなりに分かるうとはしているんだよ

でも……あやせだってあやせ自身が好きだから! 「エロを許容するあやせ」など到底受け入れられないの

あたしを「浄化」させることは既に諦めてくれていると思う



催眠のように振舞う時もあなたの言う「自分を捨てる」は当てはまらない……

自分の最善になる行動を頑なに遂行しているのみよ



性表現を悪者に仕立てるほど

あたしは悪影響に染められた  
「悲劇のヒロイン」になれる

そうすることが今は  
互いの最善……なのよ……

って！  
なにセンチ  
入ってんのあたし!?



濡れたから乾かすのよ!

さもないと風邪……いや  
あたしの部屋まで湿るしっ!



あやせもリビングで休も?

あいつと一緒に居たら  
ヤンデレが感染るわ

私?



……ムカつく……



水をかけられた事には無い……

その種の辱めを受けても  
心を平静に保てるよう私は



常日頃の自主トシを  
欠かしていない

だからこそ天界の住人へも  
すぐに自己催眠できる

浴衣まきのふへんと泣



できるけど……それでもあの  
黒髪女には

……かなわないのかなあ……



そう思うと……悔しいから……

どうして私がこのような  
劣等感を植え付けられたか





発端は好きな本を踏まれし刻だ

あの出会いの刹那より  
上下の関係が構築された  
……そう催眠された

「女王」も酔っているのね……

下人に刺される  
反語的は悦楽に

私は内心では支配されたいの？

否……「影響を  
受けたい」なのね

「友達がハマってたから  
私もコスしてみた」的な

ガチャ

初歩を進め出す  
切っ掛けを求めて……

先程は御免なさい！

使ったヤ……!!

まだ委託してるし  
代わりのをもう一冊

費用は  
茶代もろろで

……いけません……

物は買い直しても

二度と再入手が叶わない  
かけがえの無い物もあります

たとえば友情のように……

だから今手許にあるだけを  
私は大事にしたいのです

桐乃との関係も一度は  
自分の意志で壊しました……  
完全な修復は無理にしても

せめて以前のような  
状態に……戻したくて

あなたの苦手さも  
直ると良いわね？

私は「普通」に暮らしたい……

性的表現……アブノーマルな好みをも  
含めて桐乃と仲良くして行けるのか

「あやせもエロゲーも好き」と  
桐乃は私に断言してくれました

両方だなんて……

あの子ほど器用ではない  
私にはとても……



自分が解放されたように  
いま気持ち楽なんです

私は初対面の方に  
胸中を打ち明ける事など  
普段は無いのですが

何故でしょう……あなたになら  
言ってもいいと思えたのです

桐乃のお友達だから  
……なのでしょね



貴方も……

やさしいのね

先の行為の途中で  
頬に水滴を感じたわ

貴方の汗かと思っただけと

……泣いていた

私への罪悪感……  
思い遣りを抱いた印よ

あなたは白と黒を使い分けるのでは無く

白昼と暗夜を強固に輪廻させた上で邪気を装飾に加えている

人間界で例えるならば……地球と月との相互関係

自転が可能だからこそ  
フラスαを装飾し得る  
余地を得られるのよ

っふ、

実は……一目見たときから  
内心では思っていました

この飾り……かわいいなって

確かに邪悪な部分は私の  
考える「あやせ」像にとっては  
コブだと思っていました

でも桐乃が受け入れて  
くれれば月になれます

私も見習って……新たな  
考えを受け入れたい



明日がよりよくなるなら

私 頑張ります

もう……迷いません



この世界は  
目まぐるしさが過ぎるわ

人間の自分が好きか？と  
人に聞かれた時……すぐの  
返答が適わなかった

自信が無かったから……  
だけどあなた達を見ていたら

考えを改めるべき  
時が来たのかしら  
なんて……

が  
ふく  
か  
ね  
い  
た



既存の体制を批評することで  
革命は勃興させられるのよ

単純な動機に……裾をまくる  
位の簡素な行為をもって

切っ掛けは得られる……



……変わりましたよう？

貴方も

……私も……



あなたのこと黒猫が  
ノンケなのか時々の  
うたがあしくなる



黒猫か

お前すこし背が伸び

ミニミニ  
買いません



桐乃に近づいたら  
100回殺しますよ!!



私こと黒猫は

人間としての自分を捨てれば  
「私」になれると信じていた

でも悪夢の女王とは  
月という従者でしかない

廻し続けるためには地球……  
「生身の私」を否定せずに  
保たねばならないのよ

そのための秘訣……それは  
自分を好きになる事

あの女たちが為す様に  
人だけでなく自分をも  
優しく扱ってやる事なのね

だからたまには……  
捨てずに好いてみよう

墮天聖でない私を……



「人間としての私の名

「五更 瑠璃」

いつか使おうと

次週







否定したくなって……

しっかりと包装  
したのに……また

この前着た衣装  
返します……けれど



この優しい女は今後も  
確たる自律を持って邪悪さを  
発し続けるのだろうか……

おどろおどろしい  
明日の事……!!



このあと西友で  
玉子買ってくるわ

人の暮らしも  
捨てた物では無いのよ

「女王」も堕ちた物よね

っーか上下スウェットで



私こと黒猫が 足で催眠される  
発行：腰の曲がった空間